



# Workload Optimization Manager 3.1.6 REST API の変更点

2021 年 11 月 19 日

## REST API への変更点

### ■ 改善点：

修正バージョン：8.3.1

**Dynatrace では、Dynatrace ターゲットを介して VM メトリックの収集を有効化または無効化できるようになりました。**

アプリケーションを管理する場合、分析では VM メトリックが考慮されます。Dynatrace 環境では、Workload Optimization Manager は、Dynatrace ターゲットおよび基礎となる VM から VM データを検出できます。両方のソースから VM データを収集する場合、分析には Dynatrace データが使用されます。

ほとんどの環境では、Workload Optimization Manager が VM 自体から直接収集する VM データを使用するのが最適です。データはより豊かかつ正確になりますが、Dynatrace を介してこのデータを検出すると、十分なパフォーマンスが得られない可能性があります。

分析で使用される VM メトリックデータのソースを制御可能にするために、このリリースでは、Dynatrace ターゲットの設定時に [仮想マシンメトリックの収集 (Collect Virtual Machine Metrics)] の設定が導入されています。デフォルトでは、この設定は [オフ (Off)] です。オフの場合、Workload Optimization Manager は Dynatrace ターゲットを介して VM メトリックを収集せず、分析には VM 自体から収集されたデータが使用されます。

### 注：

ターゲットに対してこの設定を [オン (On)] にすると、影響を受ける VM の [アグレッシブネス (Aggressiveness)] 設定で設定するパーセンタイルが分析で使用されません。

API を介して Dynatrace を設定するときに、オプションの設定を使用できるようになりました。

```
{
  "displayName": "Collect Virtual Machine Metrics",
  "name": "collectVmMetrics",
  "value": "false",
  "defaultValue": "false",
  "isMandatory": false,
  "isSecret": false,
  "isMultiline": false,
  "isTargetDisplayName": false,
```

```

    "valueType": "BOOLEAN",
    "description": "Overwrite Hypervisor or Cloud Provider Virtual Machine
metrics with data from the target",
    "verificationRegex": "(true|false)"
  }
}

```

## ■ 改善点 :

修正バージョン : 8.3.1

このリリースには、**[無駄なファイル (Wasted File) ]** ポリシーの **[無駄なファイルの最小サイズ (Minimum Wasted Files Size) ]** の設定が含まれています。

無駄なファイルを検出すると、Workload Optimization Manager は、特定のストレージとそのストレージ上の無駄なファイルのリストを識別します。ボリュームに多数のファイルがあるような状況では、ボリュームを記述するデータが大きすぎて、ターゲットから Workload Optimization Manager に転送できないことがあります。その場合、影響を受けるストレージは分析に含めることができず、ログに文字列 (\* はワイルドカード) を含むエラーが投稿される可能性があります。

```
BroadcastStage.*Entity.*failed to be broadcast because it's too large
```

そのストレージのデータペイロードを減らすために、無駄なストレージブラウジングを指示して、最小サイズのファイルをスキップできます。その後、データのリストには大きなファイルのみが含まれるため、全体のペイロードを削減できます。デフォルトの最小値は 1 MB です。

この問題が引き続き発生する場合は、無駄なファイルのサイズを増やしてリストに追加できます。これで、ボリューム上の無駄なファイルの数が減るはずですが、**[無駄なファイルの最小サイズ (Minimum Wasted Files Size) ]** の設定を調整するには、次の手順を実行します。

1. ストレージポリシーを設定します。

[設定 (Settings) ] ページに移動し、[ポリシー (Policies) ] を選択します。次に、新しいストレージの自動化ポリシーを編集または作成します。

2. **[無駄なファイルの最小サイズ (Minimum Wasted Files Size) ]** の設定を編集します。

[ストレージ設定 (Storage Settings) ] セクションで、**[無駄なファイルの最小サイズ (Minimum Wasted Files Size) ]** の値を編集します。

API を介してポリシーを編集する場合、この設定はストレージ設定マネージャ (...api/v3/settings/specs?manager\_uuid=storagesettingsmanager) にあります。設定は次のように定義されます。

```

{
  "uuid": "minWastedFilesSize",
  "displayName": "Minimum Wasted Files Size [KB]",
  "defaultValue": "1000.0",
  "valueType": "NUMERIC",
  "valueObjectType": "String",
  "min": 0,
  "max": 1000000000,
  "entityType": "Storage"
}

```

## ■ 修正済みの問題 :

修正バージョン : 8.3.6

**groupBy 設定なしで POST stats/uuid 呼び出しを実行すると、API がグループ化された統計を返すことがあります。**

API への POST: .../stats/{statistic\_Uuid} 呼び出しの場合、取得する統計の groupBy パラメータを指定できます。groupBy 値を指定しない場合、API はグループ化されていない統計レコードを返す必要がありますが、状況によっては、グループ化されたレコードが返されます。API は一貫している必要があります。

## ■ 修正済みの問題 :

修正バージョン : 8.3.3

**businessunits エンドポイントで GET を実行すると、指定された範囲に businessunit エンティティがない場合でも、データを返すことができます。**

businessunits エンドポイントで GET を実行すると、指定された範囲に businessunit エンティティがない場合でも、データを返すことができます。返されるデータは、1つの要素を含む配列です。次に例を示します。

```
[{"master":false,"riSupported":false,"hasRelatedTarget":false}]
```

この状況に対する適切な応答は、空の配列である必要があります。

## API 廃止契約

以下のエンドポイント、リクエスト、DTO、およびパラメータは、Workload Optimization Manager API で廃止されました。サポート終了 (EOL) により、これらの変更を確定する製品バージョンが提供され、廃止項目は提供されなくなります。

### 注:

EOL が定義されている廃止項目については、代替の使用方法が示されています。

### EOL : 8.4.1

8.4.1 リリースでは、次の廃止に関する変更が行われます。廃止機能は、廃止時点で API から削除されます。

エンドポイント	なし
リクエスト	なし
要求パラメータ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ リクエスト : GET /search パラメータ名 : regex 手順 : queryType パラメータを使用します。</li> </ul>
DTO	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ DTO : ScenarioChangeApiDTO 手順 : ScenarioApiDTO で loadChanges または configChanges パラメータを使用します。</li> <li>■ DTO : StatPercentileApiDTO 手順 : StatHistUtilizationApiDTO を使用します。</li> </ul>
DTO パラメータ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ DTO : ActionApiDTO パラメータ名 : resizeToValue 手順 : newValue パラメータを使用します。</li> <li>■ DTO : ActionScopesApiDTO パラメータ名 : limitEntities 手順 : limit パラメータを使用します。</li> <li>■ DTO : BillingFamilyApiDTO パラメータ名 : uuidToNameMap 手順 : businessUnitApiDTOList パラメータを使用します。</li> <li>■ DTO : BusinessUnitApiDTO パラメータ名 : hasRelatedTarget 手順 : associatedTargetId パラメータを使用します。</li> <li>■ DTO : ScenarioApiDTO パラメータ : changes 手順 : loadChanges または configChanges パラメータを使用します。</li> <li>■ DTO : ScopeUuidsApiInputDTO パラメータ名 : topologyContextId 手順 : marketId パラメータを使用します。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ DTO : StatApiDTO パラメータ名 : percentile 手順 : histUtilizations パラメータを使用します。</li> <li>■ DTO : TargetApiDTO パラメータ名 : currentBusinessAccount 手順 : BusinessUnitApiDTO の associatedTargetId パラメータを使用します。</li> </ul>
--	---

## EOL : 8.5.1

### 動作の変更 :

- 返されたデータのページネーション

次のリクエストに対しては、デフォルトのページネーションが変更されます。

- GET /groups
- GET /groups/<groupId>/members
- GET /groups/<groupId>/entities
- GET /targets/<targetId>/entities set
- GET /tags
- GET /tags/{tagKey}/entities

返されたデータをページネーションするには、limit、orderBy、および cursor パラメータで、API によるデータのページネーション方法を制御します。現在、リストされている API リクエストに対して limit を指定しない場合、API は無制限のデータセットを返します。

バージョン 8.5.1 以降、これらのリクエストに limit を指定しない場合、API はデータをデフォルトの制限にページネーションします。limit を設定せずにスクリプトでこれらのリクエストが行われる場合、スクリプトを更新して、返されたデータのページネーションカーソルを確認する必要があります。

8.5.1 リリースでは、次の廃止に関する変更が行われます。廃止機能は、廃止時点で API から削除されます。

エンドポイント	なし
リクエスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ リクエスト : GET /users/onetimepassword</li> </ul> <p>手順 : 代替機能なしで廃止。これは、Workload Optimization Manager のアクティビティには必要ありません。</p>
要求パラメータ	なし

DTO	なし
DTO パラメータ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ DTO : ActionApiDTO              パラメータ名 :             <ul style="list-style-type: none"> <li>- currentLocation</li> <li>- newLocation</li> </ul>             手順 : アクションレスポンスでは、これらのパラメータに次のデータが返されなくなりました。             <ul style="list-style-type: none"> <li>- priceIndex</li> <li>- state</li> <li>- severity</li> <li>- unplacementDetails</li> <li>- costPrice</li> <li>- severityBreakdown</li> <li>- realtimeMarketReference</li> <li>- consumers</li> <li>- providers</li> <li>- template</li> <li>- numRelatedVMs</li> <li>- connectedEntities</li> <li>- aspects</li> <li>- tags</li> <li>- onDemandBeforeRate</li> <li>- onDemandAfterRate</li> </ul>             これらのデータが必要な場合は、ActionApiDTO.currentEntity および ActionApiDTO.newEntity で関連フィールドを見つけることができます。           </li> <li>■ DTO : BusinessUnitPriceAdjustmentApiDTO              パラメータ名 : serviceDiscounts              手順 : servicePriceAdjustments パラメータを使用します。           </li> <li>■ DTO : BusinessUnitApiDTO              パラメータ名 : discount              手順 : priceAdjustment パラメータを使用します。           </li> <li>■ DTO : CloudServicePriceAdjustmentApiDTO              パラメータ名 : discount              手順 : priceAdjustment パラメータを使用します。           </li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ DTO : CloudServicePricingModelApiDTO パラメータ名 : discount 手順 : priceAdjustment パラメータを使用します。</li> <li>■ DTO : TemplatePriceAdjustmentDTO パラメータ名 : discount 手順 : priceAdjustment パラメータを使用します。</li> </ul>
--	--

## EOL : 8.6.1

### 動作の変更 :

- 返されたデータのページネーション

次のリクエストに対しては、デフォルトのページネーションが変更されます。

- GET /groups
- GET /groups/<groupId>/members
- GET /groups/<groupId>/entities
- GET /targets/<targetId>/entities set
- GET /tags
- GET /tags/{tagKey}/entities

返されたデータをページネーションするには、limit、orderBy、および cursor パラメータで、API によるデータのページネーション方法を制御します。現在、リストされている API リクエストに対して limit を指定しない場合、API は無制限のデータセットを返します。

バージョン 8.5.1 以降、これらのリクエストに limit を指定しない場合、API はデータをデフォルトの制限にページネーションします。limit を設定せずにスクリプトでこれらのリクエストが行われる場合、スクリプトを更新して、返されたデータのページネーションカーソルを確認する必要があります。

8.5.1 リリースでは、次の廃止に関する変更が行われます。廃止機能は、廃止時点で API から削除されます。

エンドポイント	なし
リクエスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ リクエスト : GET /users/onetimepassword 手順 : 代替機能なしで廃止。これは、Workload Optimization Manager のアクティビティには必要ありません。</li> </ul>
要求パラメータ	なし
DTO	なし
DTO パラメータ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ DTO : ActionApiDTO パラメータ名 : serviceDiscounts 手順 : servicePriceAdjustments パラメータを使用します。</li> </ul>

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。

リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。

あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。